

小中一貫教育推進だより

つながる



平成 24 年 9 月 24 日 No. 17

十日町市教育委員会学校教育課



「ギャップ」を「ステップ」に

学校教育課小中一貫教育推進係
嘱託指導主事 平野久美

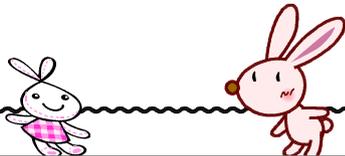
ひと雨ごとに過ごしやすさが増し、季節の移ろいを実感するこの頃です。学校では、親善陸上大会、新人各種大会等を直前に、グラウンドや体育館での子どもの声が響き渡る時期となりました。

陸上大会やマラソン大会に向け、取組カードに目標を書き込み、それを目指してタイムや振り返りを記入しながら頑張る。現場で子どもと共に居た頃の、こんな取組を懐かしく思い出します。いつの頃からだったのでしょうか。大会に向けた取組など短期目標はやみくもに定めさせても駄目だということに気付いたのは。その決め方によって頑張った取組にもかかわらず、子どもによっては挫折感を大きく味わう体験にしてしまうことがありました。年齢が低いほど、「マラソン大会で1位になる」などと自分の実態からかけ離れた目標を設定しがちです。「昨年よりタイムが向上したにもかかわらず、結果は21位。『だめだった』という思いで取組を終える。」こんな極端な例ではないにしても、こちらの配慮不足で、子どもの無謀な挑戦を容認してしまっていたことへの反省からでした。先般の宇都宮市立一条中学校長、久保徹先生の講演の『「ギャップ」を『ステップ』に』という話をお聞きしながら、こんなことが頭をよぎりました。

久保先生は、「子どもにとって小学校から中学校へ行くにあたって段差が大きすぎたので、子どもたちが少し頑張れば乗り越えられるようにしてはどうか。即ちスモールステップに変えてみてはどうか。」と考え、つまずきのポイントなどを小中の教師が一緒に洗い出し、指導を共有することから始めたといいます。素晴らしい実践です。

ここで、注意しなくてはならないのは、段差の重要性ということです。試行開始前に実施した小中一貫教育についての教職員アンケートで、中1ギャップの解消について「義務教育とその後のギャップがさらに大きくなるのではないかと。段差がある。それを乗り越えることで力が付くというチャンスを失ってしまうのではないかと。社会に出るときのギャップを社会は待ってくれない。それまでに乗り越える力を少しずつ付けていくことが必要だと思う。」という声がありました。本当に、そのとおりだと思います。スモールステップにして、9年間の最後で、登った階段の頂上が低すぎる状態では困るわけです。

単に「乗り越えられるようなステップ」ではなく、「成長が期待できるようなステップ」、「少し頑張れば乗り越えられるようなステップ」を考えていくことが肝要だと言えます。また、小学6年生と中学1年生の間のステップを低くすることだけでなく、小学6年生までの力を高めておく視点からの検討も大切でしょう。目指す15の春の姿を明確にし、つまずきのポイントなどを小中の教師が一緒に洗い出し、それぞれの段階で、「成長が期待できるようなステップ」、「少し頑張れば乗り越えられるようなステップ」を、9年間の目でどう共有していくか。そのことの大切さを改めて確認させられた機会となりました。



〈学力向上事業の取組から〉

「プロに学ぶ～授業力向上研修会 part2」が実施されます。2回目の今回は、野口芳宏植草学園大学教授が、小学5・6年生の小中の連携を意識した国語科の合同授業を行います。大勢の参加をお待ちしています。

〈日時〉10月19日(金) 13:50～16:30 〈会場〉上野小学校

「part1」では、市内はもとより市外からの参加者も多数あり、発達障害児に配慮した授業についての素晴らしい研修となりました。参加者の声の一端を紹介します。

知らないことをたくさん知ることができ、宝物をいただいた思いでいっぱいです。参加させていただき、本当に良かったと思います。帰ったら職員に可能な限り伝え、子どもたちのために役に立ちたいという気持ちにさせられました。今年一番の収穫でした。

いつものことながら、谷先生の笑顔、誉め言葉、認め言葉の豊さにびっくりです。発達障害の子どもへの接し方をライブで見せていただき、本当に有難かったです。自分を振り返る視点がいくつもありました。



〈三条市立第二中学校区の実践から〉

三条市小中一貫教育実践発表会では、9中学校区がそれぞれの学区の実態に即した取組が披露されました。今回はその中の1つである第二中学校区の特徴ある取組を紹介します。パネルディスカッションで、三条市立一ノ木戸小学校、頓所重男先生は以下のような内容の話をされました。

「子どもが行きたいと思う学校」、「親が行かせたいと思う学校」そんな学校づくりを目指している。「小中一貫教育」だからといって、全てを一体化することはない。20%程度の一貫であれば良いと考えている。この一貫を、第二中学校区では、授業の中でこそすべきであると考えて取り組んでいる。

第二中学校区は、小中一貫教育の中核を「授業改善」に置き、「小中一貫教育を授業の中で実現する」という考えで取り組んでいます。一貫して取り組む「内容」と「方法」を明確にして、継続して取り組むことを大切にしています。本年度は『思考の方法』と『言語活動』に焦点を当てることにより、子どもの思考力・表現力の育成及び基礎的な学力の向上を図る」ことを共同研修のテーマに、日々の授業を改善する「授業点検日」を設け、「授業改善チェックリスト」を活用しながら成果を上げています。

紙面の関係で詳しく紹介できないのが残念ですが、一貫することの徹底ぶりが伺えるような、小中合同「学力向上に向けた全校体制の取組」を紹介します。

- ①各種テストにおいて、合格点数を定め、到達しない場合の再テストの実施
- ②誤答を大切に、単に正しい答えを書かせるのではなく、どうすれば良いのかを説明する場の設定
- ③10人以上間違えた問題について授業で解答方法と内容の指導
- ④「エビングハウスの忘却曲線※」に基づいた実施時期を考慮した「学年テスト」等の実践
- ⑤キーワード（教科用語や中核的な概念を表す言葉）を用いた振り返りとノート指導の充実
- ⑥子どものよさや伸びを賞賛し、生活指導との一体化を図る学習意欲ある集団の育成
- ⑦パワーアップタイム（火曜6限個別指導の時間）の効果的な活用

「授業改善チェックリスト」をご覧になりたい方は、係までご連絡ください。

※心理学者のヘルマン・エビングハウスによって導かれた中・長期記憶の忘却を表す曲線。



モデル中学校区10月の活動予定



日時 <内容>	会 場	見どころ
2日(火) <乗り入れ授業> 1～4限	マウンテンパーク津南	・松代中学校区の小学6年生が中学1年生と一緒に校外に出て、中学校の教師の指導で地層について学びます。
9日(火) <乗り入れ授業> 13:30～14:20 6年(算数) 14:35～15:25 6年(部活動体験)	松代中学校	・今回は、「体験入学I」と位置付け、中学校区の小学6年生を中学校職員が担当して算数を指導します。保護者は授業参観後、子どもが部活動体験をしている間に「保護者研修会」に参加し、中学校生活への理解を深めます。
15日(月)～19日(金) <あいさつ運動週間> 7:45～8:05	①下条中学校前 信号付近 ②下条小学校前 信号付近	・下条中学校区では、縦割り班ごとに日を割り振り、左記の場所であいさつ運動を行います。今回は5回目の取組です。
16日(火) <交流活動> 16:00～16:45	下条中学校	・11月に行われるジャンボ若葉班活動の事前リーダー指導を実施します。活動計画の確認と当日までに準備することの役割分担を決定します。
21日(日) <交流活動> 14:00～16:00	中里中学校	・中里中学校の合唱コンクールを開催します。中学校の生徒会役員が事前に小学校に出向いて、小学生に参加を呼びかけます。
28日(日) <交流活動> 小学校：10:15頃～ 中学校：13:30頃～ <交流活動> 16:00～16:45	下条小学校 下条中学校 体育館 下条中学校	・小・中学校で文化祭を同日開催します。午前中は、小学校で中学3年生が合唱を披露します。午後は、中学校で小学6年生が合唱を披露します。 ジャンボ若葉班コミュニティタイムのリーダー打合せを実施します。グループ編成の確認と当日の進行手順、リーダーの動きの確認及びコミュニティタイムの進め方の相談をします。